

## 残夏

ひんやりとした風に吹き寄せられ  
片隅に掃き寄せられる枯れ落ち葉

幼児の掌を引く女<sup>ひと</sup>たちの傍らで  
咲き群れる青い朝顔

生に追い立てられても  
微風に愛撫されても

変わることなく繰り返される波動  
その上に浮き沈みする日々

暑熱に焼かれ、淀んでいた大気の  
癒しきれぬ視線のさ迷い

かすかな予感の上に漂う雲は  
それらの祈りを呼吸する

暫しの休息にまどろむことを許されよ  
慄え<sup>うち</sup>の中にすすり泣くことを許されよ

(2000.8.28)